



歯の仕組み口の仕組み

ホッペと舌はお餅つきをする！

ホッペってなんだろう？じつは噛んで食べる时候にも大事な仕事をしているよ！



舌から脳へ「おいしい」という情報が送信されます。

上下の歯の両側にはホッペと舌があります。ホッペと舌は協力して歯の上に食べ物を運びます。そして上下の歯が噛みます。

噛んだ時、ホッペは食べ物がホッペ側に落ちないように壁を作ります。すると噛まれた食べ物は舌側に落ちます。

舌は食べ物に唾液を混ぜ、また歯の上に食べ物を乗せます。そしてまた歯が噛みます。この繰り返しが「咀嚼」です。

●ホッペと舌は息のピッタリあった相方なんだね！

上下の歯の両側にはホッペと舌があり、ホッペは食べ物が歯からこぼれ落ちないように、舌は唾液を混ぜてこねる仕事をします。ホッペと舌は協力し合って食べ物を上手に軟らかくするのです。そして舌はこねるときにそのおいしさを感じて脳に伝えています。咀嚼という動作はお餅つきにそっくり。蒸したもち米を入れる臼には壁があり、杵についても外にこぼれません。杵と臼は歯で、臼の壁はホッペです。そうになると舌は？お餅つきには「つき手」以外にもう一人、もち米をひっくり返す係が必要です。この係を「返し手」といって、手で水をぬらし、つきやすくこねるのです。もうお分かりですね？舌はこの返し手です。しかも熟練のね！

2019年5月1日から
よろしくね

咀嚼のしくみは
お餅つきにそっくりです。

